

第3回アジア原子力協力フォーラム（FNCA）大臣級会合
開催結果について（報告）

- 1．主催：原子力委員会（日本）、科学技術部（韓国）
- 2．日時：平成14年10月31日（木） 9:30～18:30
- 3．場所：ソウル ASEMホール
- 4．参加国：オーストラリア、中国、インドネシア、韓国、マレーシア、
フィリピン、タイ、ヴェトナム、日本
（オブザーバー）IAEA
- 5．議事概要
 - （1）開会セッション
韓国チェ科学技術大臣、細田科学技術政策担当大臣、藤家原子力委員長の挨拶により開会。
 - （2）各国代表によるカントリーレポートの発表
参加各国より各国現状につき報告を受けた後に質疑応答があり、
主要なポイントは以下のとおり。
 - ・原子力の利用は厳格にNPT（核不拡散条約）の枠組の平和目的に沿って行われるべき。保障措置の普遍化のため12月に日本で開催される会議の紹介。
 - ・北朝鮮核開発計画に関する懸念と、計画の平和的かつ速やかな解決への強い希望。
 - ・アジアでの原子力損害賠償のための相互基金
 - ・特に若い世代に対する原子力技術継承など
 - （3）円卓討議
以下2つのテーマについて、意見交換を行った。
（テーマ1）「原子力分野における人材養成」
最初に、韓国原子力研究所ハン研修院長より、アジアにおける人材養成の必要性、人材養成におけるFNCAの努力及び人

材養成のための将来の協力の提案に関するリードオフがあり、以下の点についての重要性が認識された。

- ・原子力技術管理に関連して人材養成の情報の交換促進
- ・若い世代が原子力科学技術に触れるためのプログラム開発
- ・技術分野における異なった目的の協調
- ・高等教育のためのアジアネットワーク構築と将来の国際原子力大学設立の準備のための原子力技術訓練
- ・人材養成のための他地域との協力と相互作用

(テーマ2)「持続可能な発展と原子力」

遠藤委員長代理より、エネルギー安全保障(Energy Security)、経済発展 (Economic Growth) 及び環境保護 (Environment Protection) の3つの「E」の実現についてリードオフがあり、その後各国による活発な議論が行われた。

議論のポイントは以下のとおり。

- ・持続的発展とエネルギー供給の密接な関連について再確認
- ・参加国の多くは、現在及び将来において原子力は重要なエネルギー源の一つであることを認識。
- ・CDMと原子力については引き続き検討。
- ・新規テーマ「持続可能な発展と原子力」については今後検討の上実施。

(4) 議長サマリー

最後に大臣級会合の議長サマリーをとりまとめ。その中で、第4回FNCAは、2003年秋に東京で開催されることが発表された。

(別添)

第3回アジア原子力協力フォーラム大臣級会合参加者リスト

1. 日本からの主な出席者

細田	博之	科学技術政策担当大臣
藤家	洋一	原子力委員会委員長
遠藤	哲也	原子力委員会委員長代理
竹内	哲夫	原子力委員会委員
永松	荘一	内閣府大臣官房審議官(科学技術政策担当)
榊原	裕一	内閣府参事官(原子力担当)
竹内	新也	文部科学省研究開発局原子力課企画官
町	末男	日本原子力産業会議常務理事、FNCAコーディネーター

2. 各国からの代表参加者

オーストラリア	ヘレン・ガーネット	原子力科学技術機構(ANSTO)専務理事
中国	張華祝	国家原子能機構(CAEA)主任
インドネシア	スジャルトノ・スントノ	原子力庁長官
韓国	チェ・ユンボク	科学技術部(MOST)長官
マレーシア	ロウ・ヒェンディン	科学技術環境大臣
フィリピン	エストレラ・アラバストロ	科学技術省長官
タイ	スタ・ソムチヴィタ	科学技術省次官
ベトナム	ホアン・ヴァン・フェイ	科学技術副大臣
IAEA	モハマド・ノルディン・ラザレイ	アフリカ・アジア太平洋担当部長

以上